

キトラ古墳の調査 壁面のフォトマップ^① (飛鳥藤原第135次)

1600万画素のデジタルカメラを使用し、各カット20cmのオーバーラップをとりながら、分割撮影をおこなった。コンピュータ上で誤差数mm以内の正確なフォトマップ画像を合成した。撮影枚数は各壁面・床・天井あわせて1000枚におよぶ。写真上：西壁、下左：北壁、下右南壁
本文3頁参照 (撮影：井上直夫)



唐長安城太液池の調査（太液池南側丘陵上の発掘）

調査区北側は太液池に向かって傾斜した低地で、井戸が数基検出された。そのほか景石と考えられる石が、廃棄状態で出土している。西から。

本文 8 頁参照（撮影：中村一郎）



太液池南側丘陵上の散水

調査区南側で南北に走る回廊の基壇を検出した。基壇の東側には
磚で構築した散水が比較的よく残存していた。北から。

本文 8 頁参照 (撮影：中村一郎)



藤原宮朝堂院東第三堂の調査（飛鳥藤原第132次調査）

朝堂院東第三堂の南半、総桁行15間のうち8間分を検出。これまで梁行は4間と考えられてきたが、梁行5間として造営に着手し、ほどなくして梁行4間に計画変更していることが新たに判明した。梁行4間時は棟通りにも礎石を据え、床を張っていたと推定される。北東から。

本文48頁参照（撮影：井上直夫）

礎石据付掘形

東第三堂の礎石据付掘形は、径約1.5～2 m・深さ約40cmと巨大。小形の栗石を密に入れ、その上に礎石下面の形状とあわせるように、やや大きめの根石を据えている。北から。

本文48頁参照（撮影：井上直夫）

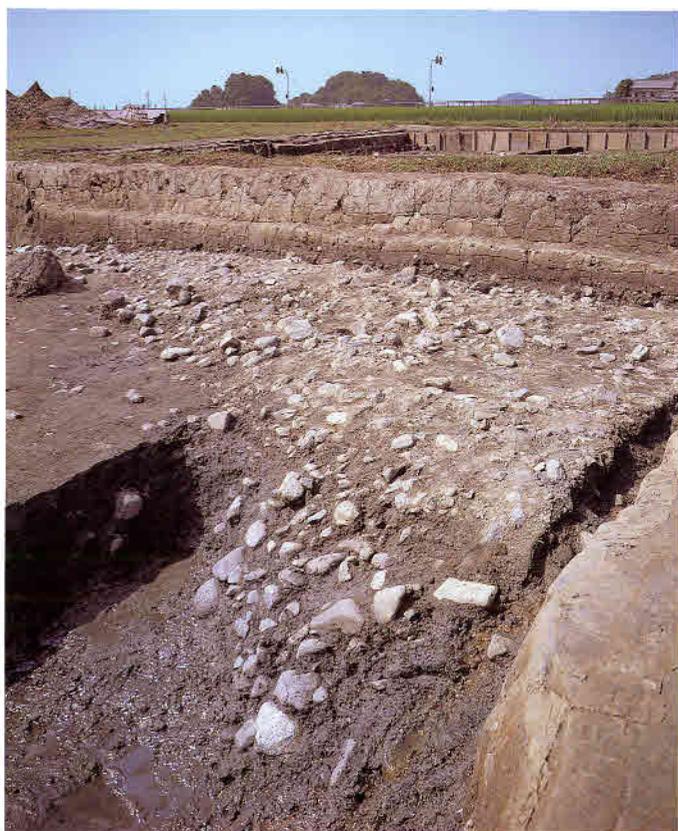




石神遺跡の調査（飛鳥藤原第134次調査）

齊明朝の饗宴施設と想定されている遺跡。本調査はこれまでに発見されている中心建物群の区画の北に接する南北2枚の水田を対象とした。遺構は希薄で、区画施設の南側と好対照をなす。北方に想定される阿倍山田道との間の空閑地か。北東から。

本文74頁参照（撮影：井上直夫）



飛鳥時代以前の石神遺跡周辺

これまでの調査により、飛鳥時代以前の調査区周辺は沼沢地と考えられてきたが、本調査区内で2本の谷が合流している可能性が高まった。礫の集中は谷地形の東岸。谷の堆積土からは古墳時代の遺物が出土する。南東から。

本文74頁参照（撮影：井上直夫）

平城宮中央区朝堂院の調査

(平城第367次調査)

中央区朝堂院の中央を占める朝庭の調査。朝堂院の中軸上で掘立柱建物群を検出し、大嘗宮の遺構を確認した。また、下ッ道の東西の側溝を確認した。北から。

本文86頁参照 (撮影：中村一郎)



平城宮中央区朝堂院の調査

(平城第376次調査)

平城第367次調査の南隣の調査区。大嘗宮の東側を構成する悠紀院の全貌が明らかになった。東妻を揃える手前2棟の東西棟は白屋、膳屋、奥の桁行5間、梁行2間の南北棟建物は正殿に比定できる。北から。

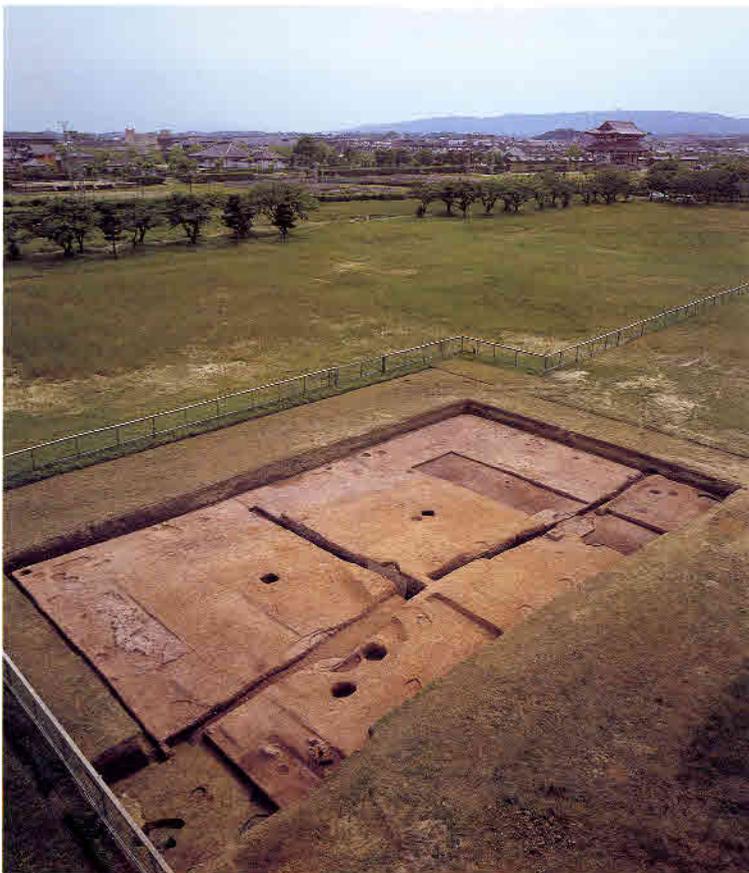
本文86頁参照 (撮影：牛嶋 茂)





平城宮朝集殿院の調査 西調査区（平城第370次）

朝集殿院の中央部と東朝集殿の建物位置の2カ所に調査区を設定した。中央部の西調査区では朝集殿院南門から朝堂院南門へと続く道路側溝と、その内側に並ぶ儀式用の旗竿の痕跡を検出した。北東から。本文96頁参照（撮影：中村一郎）



東調査区

東朝集殿に設けた東調査区では第48次調査区の再発掘をおこない、基壇を再検出するとともに、基壇下層の構造を明らかにすることに努めた。北東から。

本文96頁参照（撮影：杉本和樹）



旧大乘院庭園の調査 西小池中央部（平成第374次）

西小池中央部は、『大乘院四季真景図』に描かれた「ヲシマ」、小島、舌状の岬のほか、池底より埋甕や魚溜りなどの遺構を検出した。西から。 本文110頁参照（撮影：牛嶋 茂）



東大池西南隅部

近世の岸の造成土下層で検出した礫敷遺構。礫敷は南北で段差があり、礫の大きさや疎密度を異にする。12世紀前半の禪定院時代の庭園遺構である可能性が高い。北から。

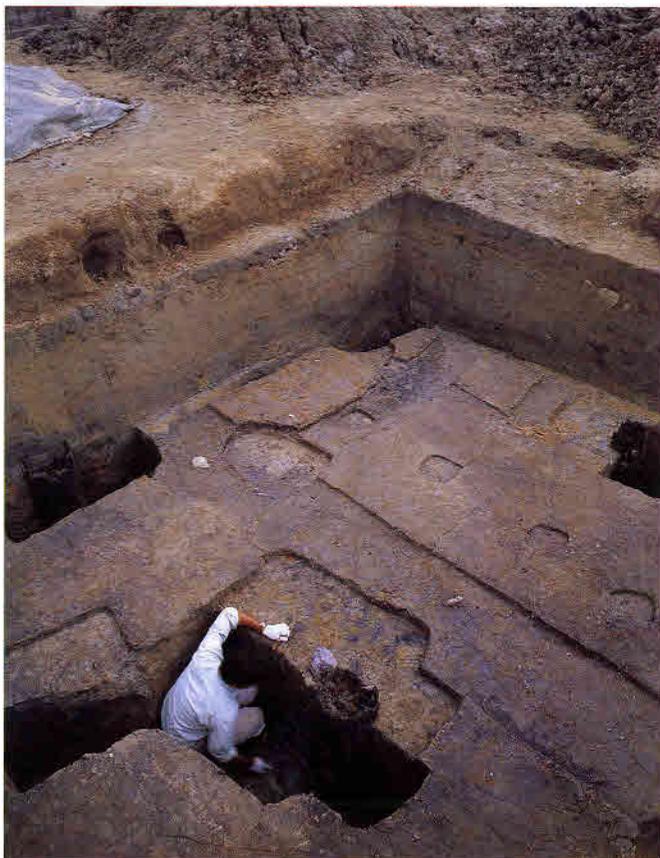
本文110頁参照（撮影：牛嶋 茂）



平城京左京二条二坊の調査 調査区全景（平城第375次）

左京二条二坊十四坪の南西部分で、北と西に庇をもつ大型掘立柱建物の西北隅を検出した。柱穴の掘形は一辺1.4mにも及び、京内一等地にふさわしい規模の建物である。北東から。

本文128頁参照（撮影：中村一郎）



大型掘立柱建物SB8900の柱根

SB8900では、良好な状態で柱根を検出した。太い柱は直径38cmある。根固めの礎板が残存する柱穴もあった。北東から。

本文128頁参照（撮影：中村一郎）